

## 海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	鶴我 朝子
所属機関	昭和大学江東豊洲病院
・研究に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会・会議名	サンアントニオ乳癌シンポジウム 2024 (San Antonio Breast Cancer Symposium 2024)
渡航期間	自 2024年12月10日 至 2024年12月15日
・研究内容 ・国際学会・会議内容	Investigating the expansion of 95-gene signature (Curebest™ 95GC Breast) indication for predicting the risk of recurrence in patients with ER-positive and lymph node-positive breast cancer.
研究成果 (要約: 800字)	
<p>2024年12月10日-13日に開催された San Antonio Breast Cancer Symposium 2024 に参加し、下記研究成果について発表を行いました。</p> <p>本邦では大阪大学とシスメックス社が共同開発した予後予測法 95-Gene Classifier (95GC)を使用した「Curebest™ 95GC Breast」が、2013年12月より臨床応用されています。95GCは、乳癌の再発に関連した95種類の遺伝子発現を測定及び解析し、再発 low-risk 群(L群)/high-risk 群(H群)の2群に分類する検査で、現在はホルモン陽性 HER2 陰性乳癌のリンパ節転移陰性症例のみを対象に運用されています。近年のガイドラインではリンパ節転移陽性症例においても術後補助療法の選択に際して予後および化学療法の効果予測のための遺伝子検査の考慮が推奨されるようになりました。本研究はリンパ節転移陽性症例における95GCの有用性の検討を目的として開始に至りました。</p> <p>単施設55例を対象とした小規模後方視的研究ではありますが、リンパ節転移陰性症例と同様に陽性症例においても、95GC-L群は5年無再発生存率及び遠隔無再発生存率で統計的に良好な予後を得ることができました。また保険適応となっている21遺伝子シグネチャーアッセイと比較し、95GCはより高い特異度を有しており、低～中間リスク群に該当するRS0-25点の患者をさらに層別化できる可能性が示唆されました。本研究により、ホルモン陽性HER2陰性乳癌における95GCのN1症例への適応拡大と、真に化学療法を回避できる患者群の層別化の可能性を提唱し、今後は多施設共同研究へと規模を拡大していきたいと考えております。</p> <p>本学会は世界各国から専門家が参加する最も大きな乳癌関連の学会であり、最先端の研究が数多く報告されておりました。がんの個別化医療が重視される昨今において、遺伝子解析を用いた治療選択は今後も重要な課題となることを改めて実感しました。今学会で得た知見を活かし、今後も臨床応用につながるようながん研究の一助となれるよう精進して参ります。この度は誠にありがとうございました。</p>	